

文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 「アジア/太平洋 小・中・高・大学生ESDワークショップ, 2011」に参加

文部科学省は、ユネスコスクールをESD（持続発展教育: Education for Sustainable Development）の推進拠点として位置づけ、ESDのさらなる広がりをめざし、ユネスコパートナーシップ事業「アジア/太平洋 小・中・高・大学生ESDワークショップ, 2011」を開催することとしました。

このユネスコパートナーシップ事業は、8月18日（木）・19日（金）・20日（土）の3日間、ユネスコスクール活動が盛んな大阪で開催され、東アジア4ヶ国と国内のユネスコスクールの子どもたち、さらには東日本大震災の被害を受けた福島県の子どもたち、約50校の小学生から大学生まで約230人が集いました。

ところで、本校は、能勢町小中高一貫教育を基盤にした国際理解・環境・福祉・地域交流学習への持続的な取組みを進めており、これらが高く評価され、昨年7月に府内の高校では7番目として、ユネスコスクールに認定されました。今年は、生徒・教職員がこの「アジア/太平洋 小・中・高・大学生ESDワークショップ, 2011」に企画段階から参加することになり、能勢町での開催・運営に携わることになりました。

初日となった18日（木）、大阪府立大学の学術交流会館でオープニングセレモニーが行われ、能勢人形浄瑠璃「鹿角座」のこども浄瑠璃が披露されました。そして、中国、韓国、フィリピン、タイの学校と能勢町立東郷小学校と府立松原高校からESD活動についての報告が行われ、引き続き、小・中・高・大の異校種・異年齢の子どもたちがファミリーになり交流を深めるワークショップが進められました。この後、外国から参加した子どものうち10人は、能勢町に移動し、本校生や能勢町内の小中学生の家にホームステイしました。（8月19日付け大阪日日新聞に掲載）

19日（金）、午前中、参加者全員が本校に集合し、2グループに分かれ、本校卒業生の紙芝居師“だんまる”さんによるESD紙芝居とダイオキシン汚染を乗り越え見事に復興した本校農場での「地球の変化を能勢町で感じる」をテーマとした本校農業科の教職員によるワークショップ・農場フィールドワークを体験しました。午後からは、能勢町宿野にある豊中市立青少年自然の家「わっぱる」に移動し、入浴・夕食をはさみ、本校をはじめ府立の住吉高校・長野高校・北淀高校など参加校によるESD活動の報告を通じ、相互の理解と交流を深めました。

20日（土）、午前中、全員が、この3日間のまとめとふりかえりをファミリーごとで行った後、東日本大震災への支え合いについて学びました。午後からは、能勢町長谷（ながたに）地区に行き、全国の棚田百選に選ばれた棚田を実際に見学し、地域の人々に手により400年以上も守られてきたことや「ガマ」と呼ばれる田んぼの下を流れる水路などについて学びました。また、公民館では、地域の方から伝統ある能勢浄瑠璃を披露してもらい、全プログラムを終了しました。

参加した子どもたちは、海外や国内のユネスコスクールとの交流を通じ、それぞれが抱える課題やその解決に向けた取組み、E S D活動を学ぶことができ、貴重な体験となりました。

最後に、本校の内田首席、望月教諭、萬浪教諭をはじめ、多くの先生方の献身的な努力と地域の方々の協力のおかげで、多くの人に能勢の豊かな自然と伝統や文化に触れていただくことができ、ホスト校としての役割を果たすことができたと考えています。今後とも本校ならではの“地域との連携を基盤にしたE S D活動”をいっそう充実させるとともに、E S D活動を通じ、能勢町内のネットワークづくりをしていきたいと思ひます。



こども人形浄瑠璃の披露（府立大）



だんまるさんのE S D紙芝居（本校体育館）



農場フィールドワーク（本校農場）



地球温暖化のワークショップ（本校農場）



棚田見学ツアー（能勢町長谷）



本校及び各校のE S D活動の報告（わっぱる）